

看護を語ろう 8月

超高齢化社会、高度先進医療が進むなか、今こそ訪問看護師が活躍しないと
いけない時だと思えます。

病院に入院できない人、入院してもすぐに退院しないといけなく、多くの不安を
抱えながら、在宅で何とか自分たちで、日々を過ごされている方が多くおられます。

例 えば、

胆石で手術をしたけれど、手術に問題はなかったので退院と言われた。

本人は老々の2人暮らしで食事の事、ADL、今後の様々な不安を抱えているという例

肺炎と診断、3日間入院したがよくなったので後は自宅で療養と言われたが、

どうすればいいのかという例

(高齢者の独居)、**大腸癌**でストーマ造設をされ、ひと通りの手技は出来るものの不安を
抱えながら退院、相談する為にはストーマ外来を受診しなければいけない、
でも、受診するほどの不安、心配ではない、どうしたらいいかわからないままに、
在宅生活をおくっておられるという例。

このような例が、あまりにも多い現実があります。

ほんの一部の患者さんだけが、訪問看護を利用され在宅生活を不安なく、穏やかに
過ごされています。上記のような、患者さんを少しでも減らすべく、訪問看護の存在、
訪問看護師の役割を、地域や医療機関関係者に理解して頂き、患者さんが一日でも長く、
地域で暮らせるように、個々に必要な質の高い看護を目指さなければならないと思っ
ています。